「第 22 回国際内分泌学会議（ICE2026)」開会式
秋篠宮皇嗣殿下お言葉（和文仮訳）

令和８(2026)年６月２日(火)

第 22 回国際内分泌学会議が、「Enlightened Endocrinology in Unprecedented Times ―異次元の時代における内分泌学の進歩―」をテーマとして開催され、国内外から多くの皆様をお迎えし、本日ここに開会式が挙行されますことを、誠に喜ばしく思います。

内分泌学は、人体の恒常性を支えるホルモンを研究対象とする極めて重要な学問領域です。全身の臓器や疾患に関係する内分泌学は、内科学にとどまらず、小児科、外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科など、多くの診療分野と連携しています。また、看護学や薬学、基礎医学とも関係の深い学術領域であり、きわめて学際的です。そして、ホルモン調節機構に関する基盤研究は、人々の健康の維持と医療の質の向上に長年にわたり貢献してきたことに加え、内分泌系が人体に普遍的に備わった機能であることもあり、この学問分野の知見は、国や地域を超えて共有され、応用されてきたことも特筆されなければなりません。

本日お集まりの皆様が、こうした分野横断的な研究活動や知見の共有を通じて、安全で質の高い医療の実現を目指してご尽力されていること、そして、世界各地において医療の最前線に立ち、人々の健康を支えておられることに、心から敬意を表します。

近年、地球規模での環境変化や自然災害、感染症への対応など、世界が直面する医療・保健面での課題は一層複雑化しております。内分泌学の研究においても、悪性疾患も含めて、より広い視野に立った研究と国際的な連携が重要です。本会議が、こうした課題に対する知見と経験を共有し、分野や地域を越えた連携を深める機会となることを期待しております。

おわりに、本会議における議論と交流の成果が、内分泌学のさらなる発展につながり、人々の健康と幸福に寄与することを心より願っております。そして、本会議の成功と世界の各地から参加された皆様のここ京都でのご滞在が有意義で心愉しいものとなりますことを祈念して、開会式に寄せる言葉といたします。